

ホンモロコ資源の分析と管理

西森 克浩

◆背景・目的

ホンモロコの資源状況を把握して、資源回復のための適切な方策を探るため、資源の分析と、ある管理施策を実施した場合の資源量等の推移を予測した。

◆成果の内容・特徴

- ・現在の漁獲率は76%と推定された (図1)。
- ・現在の%SPRは10%と推定された。資源を維持するには%SPRを30%にする必要があるといわれているので、現状はかなりの過剰漁獲状態であると考えられた (図1)。
- ・%SPRを引き上げるには、漁獲率を低下させるか、漁獲開始年齢の引上げが必要であるが、当歳魚に価値があるので漁獲開始年齢を引上げは難しい (図1)。
- ・漁獲率を現在の70%程度にしても資源の大幅な増加は見込めないが、禁漁や漁獲率を現在の半分にする事で大幅な増加が見込めることが判明した (図2)。
- ・5年間禁漁した場合に大幅な漁獲量の増加が見込めることが判明した (図3)。

◆成果の活用・留意点

このモデルでは、外来魚やカワウなどの影響も漁業の影響に含まれている。今後は、これらを分離するための調査が必要である。また、現在、ホンモロコの漁獲はほとんどが混獲によるものであり、漁業の規制が難しい。管理施策を実施した場合は、資源動向を詳細に調査し、現実合うようにモデルを修正するとともに、より実効性があるよう管理施策も修正していく必要がある。

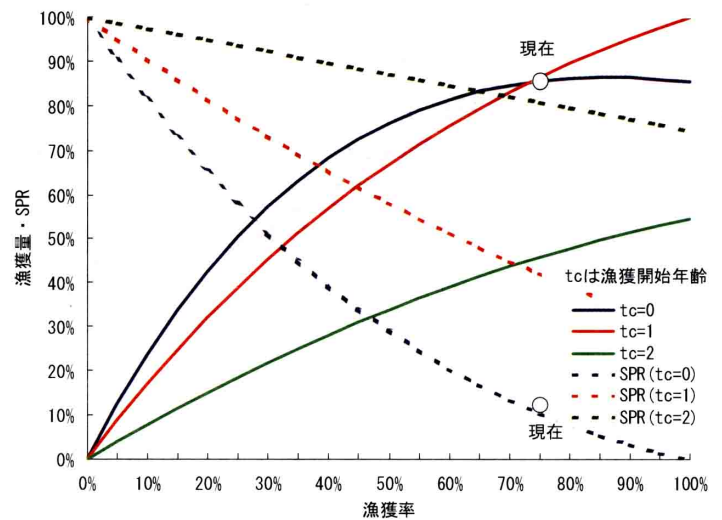


図1 資源管理図

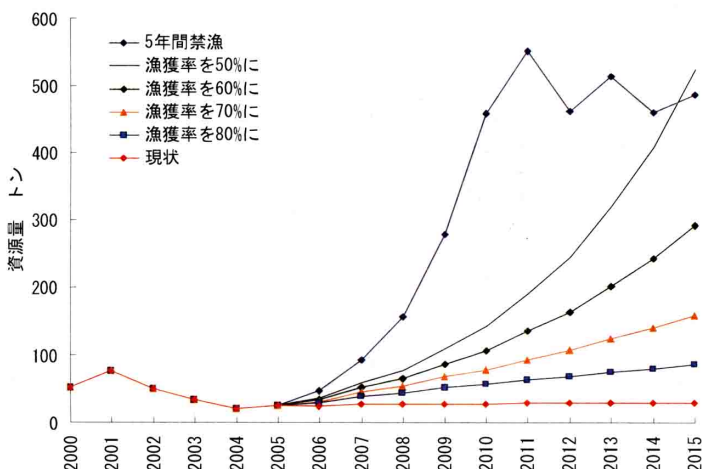


図2 資源量シミュレーション結果

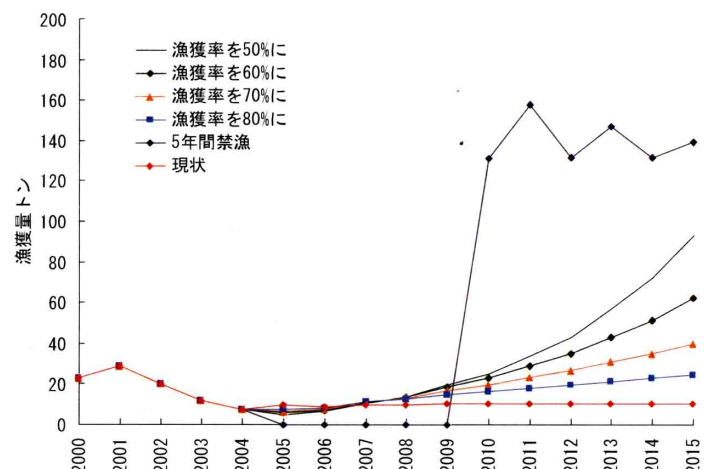


図3 資源量シミュレーション結果